

ウィークリー・アウトルック

中東情勢、リスク意識の変化に要注意!?

【今週のポイント】

- ・米ドル/円は日米長期金利差の変化に影響を受けそう
- ・NOK/SEK は中東情勢の緊迫化に伴う原油価格の動向に注意！
- ・BOC はどの程度利下げするか、総裁会見などで 12 月も大幅利下げするとの観測が強まるか

先週 1 週間(10/14-18)に、Bloomberg が集計する主要 17 通貨のなかで、台湾ドルが最も強く、次いで米ドル、英ポンド、円の順。メキシコペソが最下位でした。NY ダウが堅調で連日のように最高値を更新、米 9 月小売売上高が景気堅調を示唆したことも米ドルを押し上げる要因となりました。

今週は、IMF・世銀総会(21-26 日、ワシントン)、BRICS サミット(22-24 日、ロシア)、G20 財務相・中央銀行総裁会議(23-24 日、ワシントン)などの国際会議が相次ぎます。国際情勢や世界経済、各国金融政策に関する当局者の発言が相場材料になるかもしれません。22 日には IMF 世界経済見通しが公表されます。前回今年 4 月のタイトルは、「安定かつ緩慢 まちまちな様相の中、強靱性も」。

VIX 指数、別名「恐怖指数」は先週後半に 20 を下回り、市場におけるリスク回避の姿勢が後退したことを示唆しました。もっとも、19 日にイスラエルのネタニヤフ首相の私邸がドローン攻撃を受けたことで、イスラエルはイランに対する報復攻撃を協議している模様。中東情勢が一段と緊迫化し、リスク回避の姿勢が再び強まらないか、原油価格が急騰しないか、注意は必要でしょう。

今週の主要経済指標・イベント

			当社予想	市場予想	前回値
10月21日		IMF・世銀総会(～26日、ワシントン)			
10月22日		BRICSサミット(～24日、ロシア)			
10月23日		G20財務相・中央銀行総裁会議(～24日、ワシントン)			
	17:00	【南アフリカ】CPI 前年比(9月)	3.8%	3.8%	4.4%
	22:45	【カナダ】BOC政策金利	3.75%	3.75%	4.25%
	23:30	【カナダ】マックレムBOC総裁の記者会見			
	27:00	【米】ページブック(米地区連銀経済報告)			
10月24日	16:30	【独】製造業PMI速報値(10月)	41.0	40.8	40.6
	17:00	【ユーロ圏】製造業PMI速報値(10月)	45.0	45.1	45.0
10月25日	08:30	【日】東京都区部CPI前年比(10月)	1.9	1.8	2.1
	17:00	【独】IFO企業景況感指数(10月)	86.0	85.6	85.4
10月27日		【日】衆議院選挙の投開票			
		欧州各国が夏時間から冬時間へ移行			

市場予想はBloomberg、10月21日09:00現在。発表日時は日本時間。

米国では、ページブック(地区連銀経済報告)が発表されます。足もとの景気堅調が裏づけられるか。また、インフレの落ち着きが示されるか。米 FOMC の利下げ観測が後退すれば、米ドルのプラス材料となりそう。

日本では、10月の東京都区部 CPI。全国 CPI は前年比 2%を上回る状況が続いていますが、日銀は追加利上げを急ぐ気配はありません。31 日(ハロウィーン!)の金融政策決定会合でも据え置きが広く予想されています。12 月以降の会合に関する市場の観測はどう変化するか。米ドル/円が再び 150 円台をトライする場合、当局からのけん制はあるでしょうか。27 日の衆院選投開票に向けた思惑で円相場が動く場面もあるかもしれません。＜西田＞

* * * * *

23 日に BOC(カナダ中銀)の政策会合があります。市場では 0.25%の利下げが行われるとの見方が大勢です。BOC の声明やマックレム総裁の会見とともに、会合の結果に米ドル/カナダドルとカナダドル/円が反応しそうです。

今週は豪州や NZ の主要な経済指標の発表はありません。豪ドル/米ドルや NZ ドル/米ドルについては、米国の長期金利(10 年物国債利回り)の動向に反応しやすいと考えられます。米長期金利が上昇を続ける場合、米ドル高が全般的に進んで、豪ドル/米ドルや NZ ドル/米ドルは軟調に推移しそうです。

米国など主要国の株価動向にも注目です。18 日の米株式市場では、ダウと S&P500 が終値ベースで史上最高値を更新しました。主要国の株価が堅調に推移すれば、リスクオン(リスク選好)の動きが強まるとともに、ユーロ/円や豪ドル/円などのクロス円には上昇圧力が加わる可能性があります。

ただし、中東情勢には注意が必要です。中東情勢が一段と緊迫する場合、リスクオフ(リスク回避)の動きが強まるとともに、クロス円が下押しするかもしれません。＜八代＞

今週の注目通貨ペア①: <米ドル/円 予想レンジ:146.000 円~153.000 円>

米ドル/円は 150 円前後で揉み合っており、方向感が定まりにくい状況です。重要なカギを握るのは日米長期金利(10 年物国債利回り)の差、とりわけ、米長期金利の行方でしょう。11 月 7 日の米 FOMC や大統領選挙に絡んだ思惑が大きな材料になるかもしれません。

11 月 FOMC では 0.25%利下げが確実視されていますが、12 月については 0.25%利下げか据え置きかで見方が分かれるところ。後者が優勢となれば、米長期金利に上昇圧力が加わりそうです。今週は、ページブック以外に米国の大きな材料は予定されていませんが、21-24 日に延べ 10 人超の FOMC 参加者の発言機会があります。

大統領選挙の投開票日(11/5)まで約 2 週間。いずれの候補が勝利しても財政赤字が拡大しそうですが、トランプ氏勝利の場合に財政赤字がより大きくなるとの分析があります。議会選挙では、上院・下院

とも共和党が有利とみられており、政府・上院・下院とも共和党がコントロールする「トリプル・レッド」との観測が高まれば、インフレ高進の懸念も加わって米長期金利は上昇しそうです。

また、中東情勢の緊迫化やそれに伴う原油価格急騰のリスクなどにも注意が必要でしょう。株価が急落するならば、その場合は逆に米長期金利は低下しそうです。

他方、日本では、27日の衆院選や31日の日銀会合に向けた市場の思惑が、日本の長期金利に影響するかもしれません。＜西田＞

今週の注目通貨ペア②: <ノルウェークローネ/スウェーデンクローナ(NOK/SEK)>

予想レンジ: 0.95000S クローナ~0.98000S クローナ>

ノルウェー銀行(中銀)とリクスバンク(スウェーデン中銀)の政策会合の結果が11月7日に判明します(前者が日本時間18:00、後者が同17:30)。そのため、金融政策の差が意識されやすい状況となりそうです。

ノルウェー銀行は今年に入って政策金利を4.50%に維持。当面政策変更は行わない見通しです。18日時点のOIS(翌日物金利スワップ)に基づけば、市場が織り込む利下げの確率が5割を超える(=メインシナリオ)のは25年1月。一方、リクスバンクは今年5月、8月、9月と計0.75%の利下げを実施済み。9月の声明では、「年内残り2回の会合(=11月と12月)のいずれも利下げを行う可能性があり、そのうち1回は0.50%になるかもしれない」とし、積極的に利下げを続ける意向です。金融政策見通しの差はNOK/SEKの上昇要因でしょう。

他方、NOK/SEKは原油価格にも影響を受けます。ノルウェーは北海油田を持つため、原油価格の上昇はNクローネの上昇要因です。足もとの原油安はNOK/SEKが軟調である大きな要因でしょう。中東情勢が一段と緊迫化して原油価格が上昇すれば、NOK/SEKに上昇圧力が加わりそうです。

もっとも、原油価格が急騰すれば、世界の株価が大きく下落するなどして、リスクオフが強まる可能性もあります。NクローネもSクローナも流動性はあまり高くないため、リスクオフの場合にいずれの方向にも大きく動く点に留意する必要があります。NOK/SEKは、00年9月のリーマンショック時に急落した後、09年3月にかけて大幅に上昇。20年3月のコロナショックでは逆に急落しました(前者は過去最高値、後者は82年以降の最安値です)。＜西田＞

今週の注目通貨ペア③: <豪ドル/NZドル 予想レンジ: 1.09000NZドル~1.11500NZドル>

RBNZ(NZ中銀)は8月に0.25%、10月に0.50%の利下げを行いました(9月は政策会合なし)。市場では、次回11月27日のRBNZ会合で追加利下げが行われると予想されており、追加利下げ幅については10月の会合と同じく0.50%になるとの見方が有力です。

RBA(豪中銀)は23年11月に利上げを実施して以降、前回24年9月の会合まで7回連続で政策金利を据え置きました。ブロックRBA総裁は9月の会合後の会見で「データ次第で(利上げと利下げの)いずれの方向にも対応する用意がある」とし、利下げについては「短期的には見込んでいない」と述べまし

た。市場では、RBA は政策金利を年内据え置くとの見方が有力です。

今週は豪州と NZ の主要な経済指標の発表はなく、市場の RBA と RBNZ の金融政策見通しが大きく変化することはなさそうです。RBA と RBNZ の金融政策面からみれば、豪ドル/NZドルには上昇圧力が加わりやすいと考えられます。＜八代＞

今週の注目通貨ペア④: <米ドル/カナダドル 予想レンジ: 1.36000 カナダドル~1.39500 カナダドル>

23 日に BOC(カナダ中銀)の政策会合が開かれます。この結果が米ドル/カナダドルの動向に影響を与えそうです。

BOC は 6 月・7 月・9 月の 3 会合連続で利下げを行いました(利下げ幅はいずれも 0.25%)。

カナダの 9 月 CPI(消費者物価指数)は前年比 1.6%と、上昇率は 8 月の 2.0%から鈍化し、BOC のインフレ目標レンジ(1~3%)の中間値である 2%を下回りました。市場では 23 日の会合で追加利下げが行われると予想されており、利下げ幅はこれまでよりも拡大されて 0.50%になるとの見方が大勢です。

BOC の声明や会合後に行われるマックレム総裁の会見にも注目です。これらによって次回 12 月 11 日の会合でも大幅な(例えば 0.50%)利下げが行われるとの観測が市場で強まる場合、カナダドル安圧力となりそうです。

FRB(米連邦準備制度理事会)の金融政策については、市場では次回 11 月 6-7 日の FOMC で 0.25%の利下げが行われるとの見方が大勢です。ページブックや米経済指標などで FRB の利下げ観測が強まらなければ、米ドル/カナダドルは 1.39409 カナダドル(8/5 高値)に向かって上昇する可能性があります。＜八代＞

<執筆者>

執筆者プロフィール



西田 明弘（にしだ あきひろ）

チーフエコノミスト

日興リサーチセンター、米ブルッキングス研究所、三菱UFJモルガンスタンレー証券などを経て、2012年マネースクウェア・ジャパン（現マネースクエア）入社。

米国を中心とした各国のマクロ経済・金融政策・政治動向の分析に携わる。

「アナリスト、ストラテジスト、エコノミスト、研究員と呼び名は変われども、30年以上一貫してリサーチ業務を行ってきました。長い経験を通じて学んだことは、金融市場では何が起きても不思議ではないということ。その経験を少しでも皆さんと共有したいと思います。」

執筆者プロフィール



八代 和也（やしろ かずや）

シニアアナリスト

2001年ひまわり証券入社後、為替関連の市況ニュースの配信、レポートの執筆などFX業務に携わる。2011年、マネースクウェア・ジャパン（現マネースクエア）に入社。

豪ドル、NZドル、カナダドル、トルコリラ、南アフリカランド、メキシコペソを中心に分析し、レポート執筆のほか、M2TV出演、セミナー講師を務めている。

【プロフィール】 広島県出身。

【趣味】 野球・サッカー観戦。

【一言】 より分かりやすくタイムリーなレポートを心掛けています。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できるとされる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもあります。また、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・取引所株価指数証拠金取引における委託手数料は注文が成立した日の取引終了後の値洗い処理終了時に証拠金預託額より、新規および決済取引のそれぞれに徴収いたします。手数料額は、通常 1 枚あたり片道 303 円(税込)、NY ダウリセット付証拠金取引および NASDAQ100 リセット付証拠金取引は 1 枚あたり片道 33 円(税込)です(ただし、建玉整理における委託手数料は無料です)。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。取引所株価指数証拠金取引に必要な証拠金額は、商品ごとに当社が定める 1 枚あたりの必要証拠金の額に建玉数量を乗じる一律方式により計算されますが、1 枚あたりの必要証拠金額は変動いたします。

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
